

令和5年度地質調査総合センター研究奨励賞について

星住英夫氏、宝田晋治氏、宮縁育夫氏、宮城磯治氏、
山崎 雅氏、金田泰明氏、下司信夫氏による
『わが国最大の巨大噴火の全体像が明らかに』が受賞



地質調査総合センター（GSJ）では、研究者が推進する先端的研究成果の社会発信を加速するため、令和2（2020）年度に地質調査総合センター研究奨励賞（GSJ研究奨励賞）を設置し、プレスリリース等の成果発信を奨励している。第4回の実施となる令和5（2023）年度は、2023年1月～12月にGSJの研究者が発表した合計20件の“プレスリリース”および“主な研究成果”を対象に、「社会課題の解決や当該学術分野に大きな影響を及ぼすことが期待される研究」を選考した。選考にあたっては、地質調査総合センター研究企画室と連携推進室の9名のメンバーから構成される選考委員会を組織した。

選考の結果、令和5年度のGSJ研究奨励賞として、活断層・火山研究部門の星住英夫氏、宝田晋治氏、宮縁育夫氏、宮城磯治氏、山崎 雅氏、金田泰明氏、下司信夫氏による『わが国最大の巨大噴火の全体像が明らかに—阿蘇4火砕流の詳細な分布図と地質情報を公開—』（令和5年4月12日プレスリリース）が決定された。受賞理由は「約9万年前に阿蘇カルデラで発生した巨大噴火による火砕流分布について、地下の分布も含め詳細を明らかにし、従来の地質図では把握が困難であった火砕流の詳細な分布、堆積物の層厚および特徴、日本列島全域に堆積した火山灰の分布をデジタルデータで整備したものである。過去の巨大噴火の発生履歴・影響の情報は、地域の防災や国土利用計画への活用が期待される。また、本研究成果は、プレスリリース後から新聞やWebメディアなどで多数報じられており、社会からの反響も大きい。」である。

今回の研究奨励賞の選考にあたり、その他の“プレスリリース”や“主な研究成果”についても、学術的に重要な成果や、社会課題解決および地質情報DXに資する成果など極めて幅広い成果が多く見られ、GSJの研究者が生み出す研究成果の質の高さや、社会のニーズに沿った研究が進められていることを実感した。今後もプレスリリース等による研究成果の発信が促進されるとともに、GSJや産総研全体でのインターナルコミュニケーションの向上につながることを期待する。

なお、本賞の授与式は令和6年4月26日に執り行われ、中尾地質調査総合センター長から賞状と盾が贈呈された。また、受賞者と地質調査総合センター幹部との談話では、本研究に着手するに至った経緯、成果の反響、今後の展開などについて語られた。

（GSJ研究企画室 綱澤有輝）



野田研究企画室長 受賞者：星住英夫 受賞者：宝田晋治
受賞者：宮城磯治 中尾総合センター長 今泉副総合センター長

受賞者とGSJ幹部。